

子宮頸がん予防ワクチン（HPVワクチン） 予防接種のお知らせ

<子宮頸がんとは>

子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では、年間約 1.1 万人の女性が子宮頸がんにかかり、毎年、約 2,900 人が亡くなっています。特に 20～40 代の女性に急増している病気です。子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスの感染が主な原因となっています。

ヒトパピローマウイルス（HPV）は性交渉により感染しますが、皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスで、50%以上の女性が一生に一度は感染すると言われています。感染は一時的で、ほとんどの場合は免疫力で自然に排除（90%以上）されますが、ごくまれにウイルスが体内に長く住みつき、子宮頸がんを発症することがあります。

<ワクチンについて>

ヒトパピローマウイルスは、200 種以上の遺伝子型に分類されます。ワクチンは、「サーバリックス」と「ガーダシル」「シルガード」の 3 種類があり、いずれのワクチンも、子宮頸がん患者から最も多く検出される HPV16 型及び 18 型を含み、4 価ワクチン（ガーダシル）は生殖器にできる良性のいぼ（尖圭コンジローマ）の原因となる HPV6、11 型への効果もあります。さらに、9 価ワクチン（シルガード）は、これらに加え HPV31、33、45、52、58 型への効果があります。

※いずれかを選択し、原則同じ種類のワクチンを接種してください。

<接種後の副反応について>

○多くの人に起こる症状（接種を受けた人の10%以上に起こった症状）

注射した部分の痛み、腫れ、発赤、筋肉や関節の痛み

○その他の症状

注射した部分のかゆみ、出血、不快感、発熱、めまい、発しん、じんましん、緊張や不安、痛みなどをきっかけに気を失う

○まれですが、起こるかもしれない症状

呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー（アナフィラキシーショック）

手足の力が入りにくいなどの症状（ギラン・バレー症候群）

頭痛、嘔吐、意識の低下などの症状（急性散在性脳脊髄炎（ADEM））

★接種後 30 分間は接種医療機関にて様子を見てください。気になる症状等が見られましたら接種医にご相談ください

1 対象者 次の3つを満たす方が対象です。

①平成9年4月2日～平成21年4月1日生まれ的女性

②キャッチアップ接種期間（令和4年4月1日～令和7年3月31日）に HPV ワクチンを1回以上接種している

③過去に HPV ワクチンの接種を合計3回受けていない

※過去に接種したワクチンの種類や接種日については母子健康手帳をご確認ください。

2 接種可能な時期について

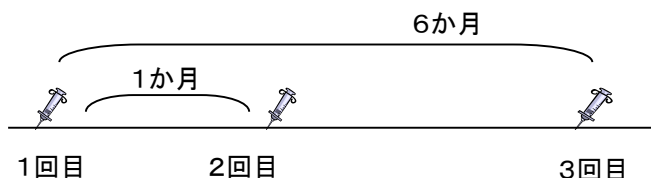
上記の対象者は、**令和7年4月1日～令和8年3月31日の1年間**、公費で接種を受けられます。

希望される方は、なるべく早く接種しましょう。

3 接種するワクチンのスケジュール

決められた間隔をあけて、**同じワクチンを合計3回接種**します。

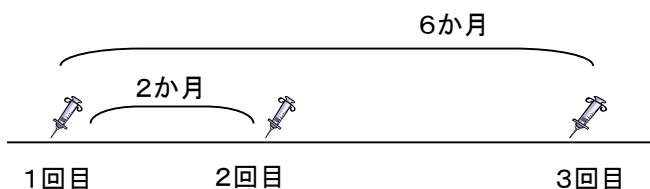
①サーバリックスの標準接種スケジュール



（標準接種スケジュール通りできなかった場合）

- ・ 2 回目は初回から 1 か月以上の間隔をおいて接種。
- 3 回目は、1 回目から 5 か月以上かつ 2 回目から 2 か半月以上の間隔をおいて接種する。

②ガーダシル ③シルガードの標準接種スケジュール



（標準接種スケジュール通りできなかった場合）

- ・ 2 回目は初回から 1 か月以上の間隔をおいて接種。
- 3 回目は、2 回目から 3 か月以上の間隔をおいて接種する。

4 接種方法

- ・松戸市内指定医療機関で受ける個別接種です。(別紙医療機関一覧表参照)
- ・指定医療機関以外では「予診票(無料券)」は使用できません。
- ・転出等で松戸市に住民登録がない場合は、松戸市発行の「予診票(無料券)」は使用できません。

5 ワクチンを接種することができない方

- (1)明らかに発熱(通常 37.5℃以上を言います)のある方
- (2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方(急性で重症な病気で、薬を飲む必要のある方は、その後の病気の变化もわからないことから、その日は接種を受けないことが原則です。)
- (3)ヒトパピローマウイルス感染症(子宮頸がん)予防ワクチンの成分に対して過敏症を起こしたことがある方
- (4)その他、医師が不適当な状態と判断した場合

6 ワクチンを接種する前に医師とよく相談しなくてはならない方

下記に該当する人は、かかりつけの医師と相談して受けましょう。

- (1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患がある方
- (2)過去に予防接種を受けた後、2 日以内に発熱のみられた方
- (3)過去にけいれん(ひきつけ)を起こしたことがある方
- (4)過去に免疫不全の診断がされている方、及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる場合
- (5)血小板減少症や凝固障害がある方
- (6)妊娠している方、または妊娠している可能性のある方

※妊婦又は妊娠している可能性のある方は原則接種しないこととし、予防接種の有益性が危険性を上回ると判断された場合のみ接種できます。

7 ワクチン接種上の注意

- (1)接種後、失神発作があらわれることがあるので、転倒等を防止するため、注射後の移動の際は保護者又は医療関係者が腕を持つなどして付き添うようにし、接種後30分程度は背もたれのある椅子に座らせるなど、なるべく立ち上がらないようにしましょう
- (2)接種後、1 週間は副反応の出現に注意しましょう。
- (3)接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し控えありませんが、接種部位を揉んだりしないようにしましょう。
- (4)当日は、激しい運動は避けましょう。

8 健康被害の救済制度について

- ・定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

子宮頸がんで苦しまないために

ワクチンを接種された方も20歳を過ぎたら定期的な子宮頸がん検診を受けることが大切です！
また、HPV感染は主に性的接触により起こります。パートナーと共に性感染症を予防しましょう。